

戦氣

東大津高等学校

東大津高校の部旗には宮本武蔵の書き残したことで有名な言葉「戦氣」の二文字が書かれてあります。

「戦」は平凡社の『字統』という辞書によりますと、盾（𠂔）を表す「單」という字と「戈（𠂔）」という字が重なっていて、盾で身を守りながら矛を持って戦う姿を表しているということです。「氣」は息という意味ですが、呼気と一緒に出てくる人間の精神という意味もあります。したがって「戦氣」とは「戦いへの意気込みや心境」という意味ですが、『大漢和辞典』（大修館）によりますと、古い用例としては『魏志』という史書に出てくるようです。

さて、武蔵揮毫の「戦氣」（熊本松井文庫蔵）という力強く書かれた二文字の下には「寒流帶月澄如鏡」という白楽天の詩の一節が流れるような字体で書かれています。

「寒流月を帯びて澄めること鏡の如し」と読み下しますが、「冬の夜、水を湛えてゆったりと流れる川面には月が映し出され、まるで鏡のように澄み切っている」という意味でしょう。この詩そのものは、宴が終わろうとすることを惜しんで白楽天が詠んだものようですが、武蔵は、この厳しいまでに澄み切って美しい詩の句が「戦氣」に通じると考えたのだと思います。

東大津高校は、大津市南部の文化ゾーンの一部にあり、美しく豊かな自然に恵まれています。自然というものはある時には人の心を優しく癒してくれますが、反対に、厳しく鍛えてくれることもあります。東大津高校の部員の皆さんは、この部旗のもと、お互いに厳しく鍛え合いながら、支え合って稽古に励んでいることと思います。

（「別冊歴史読本 図説宮本武蔵の実像」－人物往来社参照）